



RIBS·CADM Seminar



日時: 7月10日(火) 10:00 - 11:00

場所: 東京理科大学 生命医科学研究所
2階 大講義室

免疫記憶を制御する

常世田好司先生

グループリーダー

ドイツリウマチ研究センター



私達の身体は感染を記憶することができる。それによって、同じ種類の感染源が再び侵入したときには、素早く感染源を取り除くことができる。ワクチンを開発する上で、この記憶力を自在に高めることができれば、あらゆるワクチンの能力を高めることができるかもしれない。一方で、自己免疫疾患やアレルギー疾患のように、自己や無害のものを感染と間違い記憶してしまう病気が存在する。この病気を完治させる上で、この記憶力を喪失させることは、あらゆる自己免疫疾患やアレルギー疾患の完治に向けて、非常に有効であると考えられる。

私は、液性免疫の記憶に関わる、記憶ヘルパーT細胞と長寿命「記憶」プラズマ細胞に焦点を置き、その維持に必須な細胞や分子の同定を目指している。本セミナーでは、サルモネラ感染の研究から偶然発見した新しい記憶細胞の維持メカニズムのことや、阻害実験から複数の細胞群が記憶細胞とネットワークを形成しお互いに維持し合っていること、さらに記憶細胞の形成には、特殊な活性化が必要であることなどを主に紹介したい。免疫記憶の形成と維持のメカニズムを明らかにすることで、その記憶力を制御する方法を見つけ、新しいワクチンの開発や自己免疫疾患・アレルギーの完治につなげていくことを目指している。

Host: Masato KUBO (Division of Molecular Pathology, RIBS)

E-mail: masato.kubo@riken.jp Cell Phone: 080-1074-3325